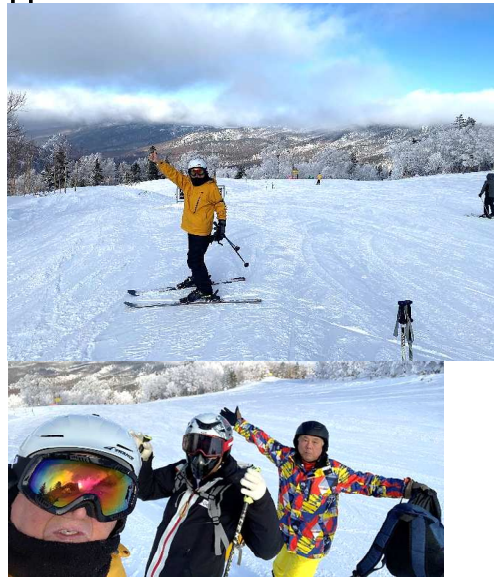




## 信州スキー遠征(志賀高原)!



年を忘れた3人衆

表紙の写真をご覧いただいたように、2月初旬に昨年に続いて同じメンバー(73歳・67歳(私)・65歳)3人で信州にスキー遠征に行っていました。昨年は白馬でしたが、今年は志賀高原!

早朝5時過ぎに大竹駅を出発し新幹線・在来線乗り継いで長野まで移動し、長野駅からはバスで45分。何とか午後2時に到着し、早速グレンデへ行き、2時間ほど。翌日は朝から広いグレンデを順々に移動しながら滑りましたが、それでも全コースの6割程度しか滑りませんでした。さすが志賀高原は広い! 天気も午前中はガスがかかって視界が悪かったのですが、午後は写真のように最高のコンディションとなり、夕方4時まで年も顧みずスキーを堪能した次第です。

テレビのニュースなどで外人が多いと報じられてましたが、レストランに行くと「ここは日本?」と思うほど外人が多いのにびっくりです。ゴンドラで相席した外人はオーストラリア人で、3年連続でスキーをしに2週間ほど日本に来ているそうで、年齢は70歳で仕事はリタイアしたとのこと。円安と言うこともあるのですが、2週間ゆっくりと日本に来れるとは羨ましい限りです。

さて、来年はどうなることやら・・・(啓)

## 永年勤続表彰



宮本君勤続20年表彰

令和5年度も終わりを迎えた3月8日。一年のご苦労さん会を岩国の福源さんでフグを皆でいただき労をねぎらいました。

近年コロナ禍で感謝祭などの行事ができなかったため、社内の節目の事が全くできていないことに気づき深く反省。廿日市店長宮本君(勤続20年)と本社事務の向井さん(勤続10年)の永年勤続表彰を行いました。

宮本君は2002年(平成14年)4月に新卒で入社し、何と入社21年! 21歳の青年が42歳のおじさんとなり、息子さんは高校を今春卒業! 入社したての頃の宮本君を覚えておられるお客様も多いのではないかと思います。何とも時の経つのは早いものです。廿日市店長として早いもので10年、益々の活躍を期待すると共に、廿日市エリアのお客様のご支援をお願い申し上げます。

向井さんは2011年4月に入社で、入社12年となります。入社時にかわいいう小学生だった娘さんも専門学校生のお嬢さんとなり、いよいよ子離れの時期でしょうか? これからも気持ちの良い電話対応と、正確な事務処理よろしくお願いします。(啓)



向井さん勤続10年表彰

## 耐震模型製作中!



冒頭に能登半島地震のことを書きましたが、一般の方に木造住宅の耐震について少しでも分かっていただくために、揺らすことで倒壊する模型を作成しました。名古屋の業者さんが同等の物を販売していますが、価格を聞いたら40万円と言われ、廿日市店の竹内君に作ってもらった次第です。イベントやセミナーなどで、どのようにしたら耐震性が上がるのかをこの模型を使って分かりやすく説明できればと思っています。

「住いの困った」は ゲイナンハウス 大竹店・廿日市店共に  
フリーダイヤル0120-505-375 URL:<http://www.geinan-house.co.jp/>  
最後までお読みいただき有難うございました、次回は8月頃の予定です。(啓)  
\*尚、この「住まいる通信」がご不要の方はご一報願います。送付を停止いたします。



立山  
(と思います)

志賀高原スキー場焼額(ヤビタイ)山の北アルプスビューポイントから!  
北アルプス山脈の向こうに立山が見えます

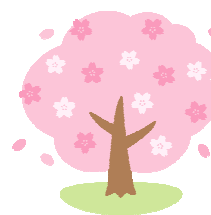


河野

みなさんこんにちは! ついこの前正月を迎えたかと思っていたら、あれよあれよという間に新年を迎えてしまいました。ゲイナンハウスも令和6年度のスタートです。

上の写真は、昨年のこの通信「信州スキー遠征」に「来年は志賀高原に行こう!」と書きましたように、2月初旬に昨年と同じメンバーで長野の志賀高原に行った際に撮った写真です。今回は昨年よりも天候に恵まれ、写真のような絶景を目にすることができました。今年もスキーを楽しむことができたことに感謝です!

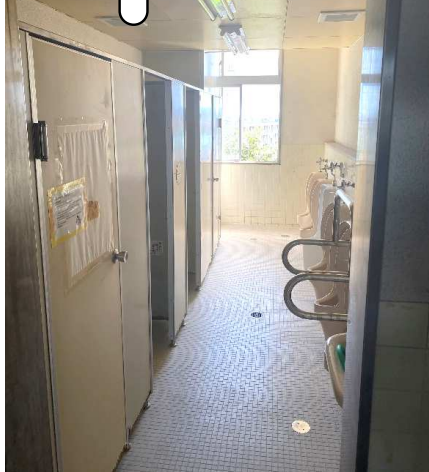
さて、元旦の夕方、帰省した息子たちと飲み始めた時、テレビに能登半島地震の映像が中継で映され、地震で家屋が倒壊する様子を息を呑んで見入りました。以後この映像は何度となく放送されたので、見られた方も多いかと思います。痛ましいことに今回の地震でも多くの方がお亡くなりになられておりますが、特筆すべきは建物の倒壊によってお亡くなりになられた方が100人以上もおられ、しかもそのうち70代以上が66%と言うことです。今回被害の大きかった珠洲市で国の耐震基準を満たしていた住宅は約半分の51%、輪島市に至っては半分以下の45.2%だとのこと、改めて建築にかかわる者として耐震改修の必要性を痛切に感ずる次第です。



毎年、大竹市の補助事業で耐震診断をさせていただいております。昭和56年以前に建てられた建物が対象ですので、これまで診断した全ての建物が国の安全基準を満たしていませんでした。しかしながら、その結果をもとに耐震改修に踏み切られる方は僅かで、ほとんどの方が「自分ももう年だし、あと何年住めるか分からん家にお金は掛れん!」と言われます。ただ、今回の能登半島地震のような地震が日本のどこかで起こることは間違いありませんし、耐震基準を満たしていない家に住んでいる高齢者の方が被害に遭うことも間違いのないことでしょう。行政が補助を拡大して耐震改修を進めることも必要と思いますが、広い家に一人住まいとなった方が、その地域の中で安心できる住まいに住み替えできるようなことはできないものかと考えさせられます。(啓)



# 大竹市玖波中学校トイレ改修工事



着工前

昨年の11月から今年の1月にかけて、大竹市立玖波中学校の2階3階生徒用トイレの改修工事を行いました。この住まいる通信をご覧いただいている皆様がお通らされたころの学校の「暗い・汚い」トイレを思い出していただきつつ、最近の学校のトイレをご覧いただければと思います。

現在の校舎は山陽自動車道建設に伴って現在の場所に41年前の昭和57年に移転新築されました。大竹市の他の中学校は平成17年に大竹中学校が建替え新築され、平成25年には小方中学校も移転新築され、両中学校とも冷暖房設備完備、トイレも大便器は全てが腰掛便器でウォシュレットが設置されています。しかも、内装はタイルを使っておらず、床はビニール長尺シートで仕上げられており、上履きそのままトイレを使用します。近年地元の小中学校に行かれたことのない方は「へえ〜！」と思われるかもしれませんが、最近の学校設備は住宅設備の進歩同様、かなり進化しています。

41年前に建てられたこのトイレは、若干手は入れられているものの、ほとんど建築当時のままで、左の写真のように床はタイルで水を流して掃除するようになっており、大便器の大半は和式です。今の中学生の自宅で和式便器のある家はまず無いと言っても過言ではないほど住宅のトイレの洋式化は進んでいるので、着工前のトイレを見て、今の生徒さんはさぞかし使うのが大変だったのではと察した次第です。

左の写真が完成写真です。トイレブースも新しくし、床はタイルの上からモルタルを塗り長尺シートで仕上げました。乾式の床にしたことで、他の学校と同じように上履きそのまま使えるトイレになりました。大便器は全て腰掛便器にウォシュレットを設置。小便器も床に抗菌・防臭効果のあるセラミックの床材を設置し、便器洗浄も自動フラッシュバルブを取り付けています。

完成写真を見ると「きれいになったね〜！」と思われるでしょうが、壁のタイルなどは改修しないので、新入社員の日野君が何日もかけて汚れをきれいにしていますし、41年前の配管を利用しますので、見えない所の施工に手間が掛かって本当に大変でした。

現場管理をした河野君、日野君、職人の皆さんご苦労様でした。

工事が終わった後、教頭先生から渡したいものがあると言われ職員室に行くと「うちの生徒からのお礼のメッセージです」と手書きのカード(左の写真)の束を渡されました。事務所に戻って一枚一枚見せると、生徒さん48人が「きれいなトイレに工事をしてくれてありがとう！」などと感謝の言葉を書いてくれていました。これまでも学校の工事はしてきましたが、こんな有難いものをいただいたのは初めてでしたので、ちょっとご紹介させていただきます。(啓)



完成



# 事前にドローンでチェック！ 外壁と屋根の塗装工事



施工前

築25年の住宅です。外壁は窯業系サイディング、屋根はモニエル瓦と言うセメント系の瓦が葺かれています。

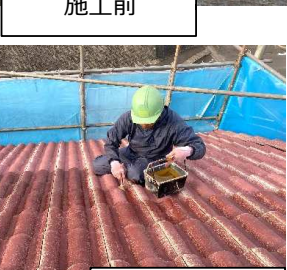
外壁の劣化具合は目視で見えますが、2階の屋根は上るのが危険なため、資格を持った宮本君にドローンで撮影(上の写真)してもらい、割れた瓦などが無いことを確認しています。

今回の施工のポイントは

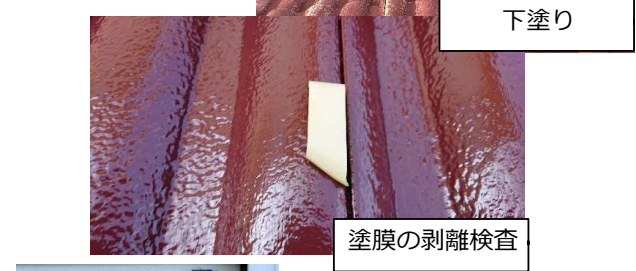
- 1.外壁のサイディングの継ぎ目や窓回りなどに施工されたシーリング材の打ち替えを行うことで、雨漏りを防ぐこと
- 2.モニエル瓦は塗装が密着しにくい瓦のため、現状の塗膜層を高圧洗浄でしっかりと剥離させ、下塗りのシーラー材をしっかりと瓦に吸い込ませてから、上塗り塗装を行うこと



高圧洗浄



下塗り



塗膜の剥離検査

まずは屋根瓦の高圧洗浄。左の写真のように高圧の水で瓦を洗浄するのですが、既存の塗膜が剥げて真っ赤なしぶきが飛び散り、近くに停めていた私の白い車に赤い水滴が付くほど。慌てて、お隣の車にも養生シートを掛けさせてもらい洗浄を進めた次第です。そして、左の写真のように下塗りのシーラー材をしっかりと塗布するため、2回施工しました。そして上塗り後は剥離しないか養生テープで密着を確認しましたが、2階の屋根は良かったのですが、1階の屋根で剥離が起ってしまったため、再度下塗りから施工をやり直しています。職人共々このモニエル瓦の難しさを再認識です。



シーリング工事

さて、外壁のシーリング工事ですが、築後25年経っているためシーリングの部分の塗膜がひび割れている状態(左)でした。劣化が進んで十分な止水ができないためシーリング材を撤去(中)し、新しいシーリング材を施工(右)しました。シーリング材は紫外線に弱いためこの上から塗装することで、塗膜がシーリング材を保護し、止水性能を保つことができます。

雨樋などの塩ビ材も紫外線で劣化が進みますので、ウレタン塗装を行っています。

左の写真が完成写真です。施主さんと色の打ち合わせをした際に「少し色が派手ですかね？」と話をしましたが、仕上がりは屋根と壁の色のバランスも良く、お施主様にも喜んでいただきました。

大竹市では外壁の塗装工事でも補助金の対象になりますので、お得に塗装替えできます。



完成